

オーディオパークCDのポリシー"AUDIO REFERENCE" 「エングロス (ENGROSSED) CD」の制作について

オーディオパークでは、オーディオ・ファン、音楽愛好家のために高品位の音源というべき"AUDIO REFERENCE"「エングロスCD」を制作して居ります。

器材は最新のものに更に独自の工夫、改良を加えDSD又は24bit HSモードで、直接ミキシングされたダイレクト録音です。従って、多数の複雑な電子回路の通過やマルチ・チャンネル、トラックダウンなどの経路を極力排除して忠実度を出来るだけ損なわない、いわゆる一発採り方式としました。このことは、演奏者に極度の緊張感と過度の負担を与えますが、CD媒体を通じ素晴らしい迫力となつて、音楽性を高めそれらを豊に鑑賞することが出来ます。従って、従来多く見られるこまぎれ演奏の継ぎはぎ編集CDや、別々演奏の合体編集CDとは一線を画するものです。

「エングロスCD」は演奏の質の高さは無論のこと、録音技術の素晴らしさと録音スタジオの音響性能の良さに加え、何よりもリスナーと演奏者の親近感や一体感と、最高の環境と条件でつくられたものであると確信しております。

マスター・レコーディング・システム



HS 96kHz MASTER RECORDING

CDはサンプリング周波数44.1kHz、16bitでの記録媒体です。音源の録音に96kHzのハイ・サンプリング方式でCDの2倍以上の高い周波数でマスターを制作したものです。そのため、CDの欠点とされる高音域の歪みを大幅に改善し、より自然なソフトな音質に仕上げられました。1990年代他社に先駆け独自の方式で、マスター制作を行いました。



24bit MASTER RECORDING

HS 96kHzマスターに更にきめ細かい、繊細な楽器の分解能を向上させるため24bitでマスターを制作したものです。これにより以前より指摘されていたCD特有の刺激的なザラザラ音を除くことに成功しました。この方式は1990年代後期に他社に先駆け、全面的に採用したマスター制作方式です。



DSD MASTER RECORDING

DSD (Direct Stream Digital) マスター方式は従来のCDでは完全な音楽の物理的性能を表現出来ないことなどから音質を追求するため生まれたオーディオ・システムです。この方式は音質向上を狙ったSACD (スーパー・オーディオCD) にも使用されています。オーディオパークでは2000年の初期より他社に先駆け全面的に採用しています。

これらの録音方式により、演奏者の楽器の音色、テクニックをよりクリアーに、より自然に、温かみのある音質で聴くことが出来ます。